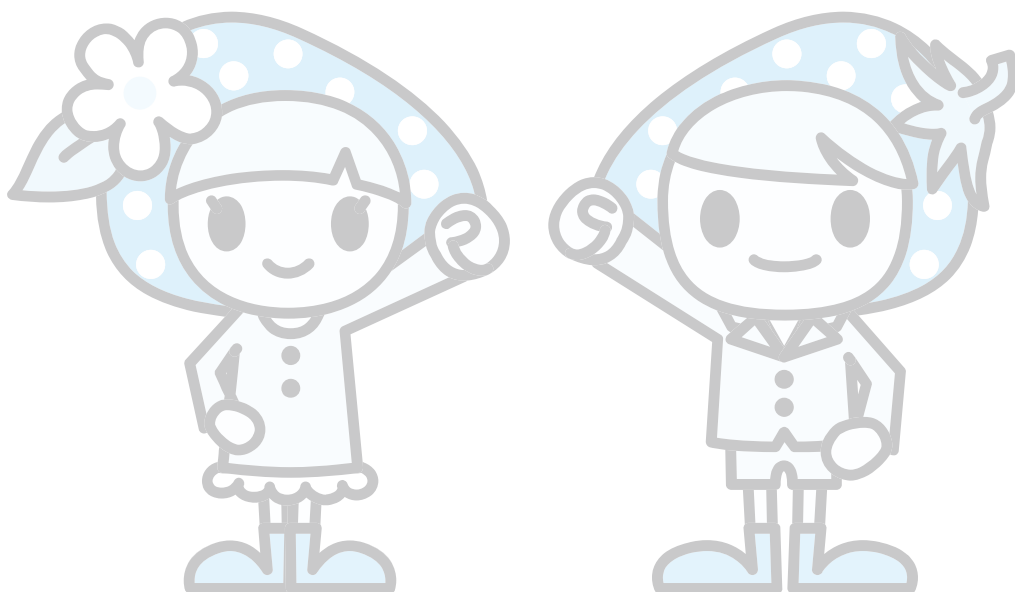




地区別計画



地区別計画

1. 地区別計画の性格と役割

地区別計画は、本村の18地区を主体として第5次喬木村総合計画の施策の体系に基づき、今後取り組むべき各地区の課題とその解決方法、10年後の将来像とその具体的な取組について定めています。計画期間は、平成28年度から令和7年度までの10年間とします。

2. 地区別計画の構成

(1) 地区の将来像

各地区の令和7年度の将来像を描き、キャッチフレーズとして掲げています。

(2) 地区の人口動態と目標人口

各地区の現在の人口と令和7年度の将来像を実現するための目指すべき人口を掲げています。

(3) 地区の特性と保有する資源

各地区における強みや性格、誇るべき資源等をあらためて見直し、地区の特性と保有する資源としてまとめています。

(4) 地区の課題と解決方法

地区のコミュニティに係る課題や地区特有の課題をあげて、地区としての解決方法をまとめています。

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

「地区」、「個人や家庭」、「村との協働」の3つの役割から、令和7年度の将来像を実現するための取組をまとめています。

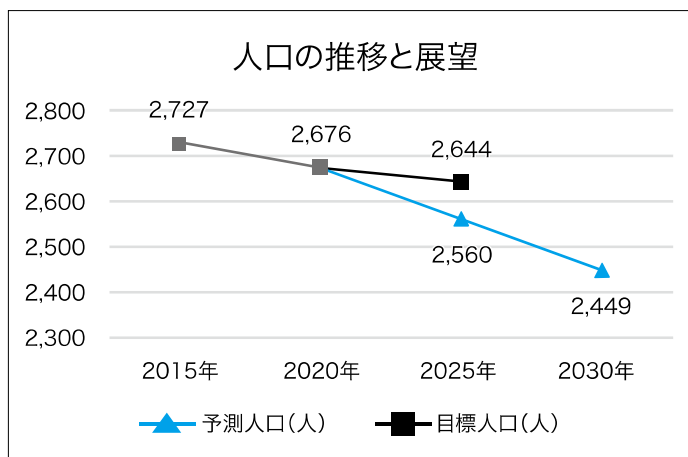
1 阿 島 区

(1) 阿島区の将来像

豊かな自然の中で生きがい共有できる地区

(2) 阿島区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	2,727人
2020年 (令和2年6月1日)	2,676人
2025年(予測人口) (令和7年)	2,560人
2025年(目標人口) (令和7年)	2,644人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・ 宅地造成と将来を見据えたインフラ整備を計画し、村に進言する。

(3) 阿島区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・ 喬木村で一番大きな区である。
- ・ 歴史と、暴れ獅子で有名な担ぎ獅子の阿島祭りがある。
- ・ リニアが通過し、長野県駅に一番近い区である。
- ・ 小さな拠点づくりが計画されている区である。
- ・ 小中学校、特養、保育園等公共施設がある。
- ・ 椋鳩十の生誕の地。

(4) 阿島区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①少子化により、青年獅子、子ども獅子ともに人手不足が予想される	<ul style="list-style-type: none"> ・ 竜東地区特有の「担ぎ獅子」の伝統は維持しなければならない。 ・ 青年獅子の人手不足の対応策を、獅子青年、関係者と協議する。 ・ 保存会形式も、一つの手段として検討していく。
②里山公園の維持管理と委託管理山の保全事業の内容について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山公園の必要性を検討し、どう維持していくか考える。 ・ 管理山の維持作業は、現状の内容だけでなく、できることは村と相談し、進めていく。
③廃屋、空き家対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常時住む人のいなくなった住居の情報を収集し、村に確認を依頼して、条件のいい状態で賃貸できる建物を掘り起こす。
④リニアの工事に伴う工事関係者、車両の出入りが多くなるため、治安、安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村、リニア中央新幹線対策委員会及び北地区リニア対策協議会と連携し、情報を共有し、協議を図る。
⑤自治会の再編	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成戸数が 50 戸を切った自治会があり、自治会等の役員選出もままならない状況になってきております。近隣自治会との再編も、検討材料のひとつとして、各自治会が抱える課題・問題等を共有し、連携して活性化に取り組む。

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

阿島区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的転入者の増加を図るため、自治会と区で「地区インフラ計画（道路、宅地、公園等）」を作成する
個人や家庭で取り組む	
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業・観光での村づくりを考える（年間 5 万人のいちご狩り来園者が、それ以外で寄っていく場所がない） ◎シンボルゾーン（堰下地区） ◎小さな城下町（郭）、曙月庵等

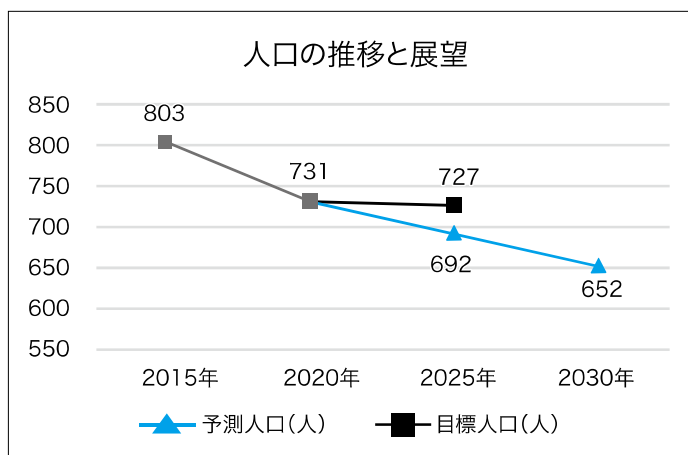
1-1. 北 地区

(1) 地区の将来像

豊かな自然環境の中、安心して楽しく暮らせる北耕地

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	803人
2020年 (令和2年6月1日)	731人
2025年(予測人口) (令和7年)	692人
2025年(目標人口) (令和7年)	727人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・ふるさと会等を通じUターン・Jターン者を確保する働きかけをする。
- ・子育て世帯を増やすため、村と協働で住宅地+公園の整備。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・リニア中央新幹線が北耕地のほぼ真ん中を通過する。
- ・加々須川、土井場沢川、壬生沢川が流れ、西には天竜川があり、水資源が豊かな土地柄である。
- ・河岸段丘から天竜川に繋がる広く平坦な地形は、農業にも居住にも適している。
- ・小規模農家による米作り・野菜作り・酪農が行われている。
- ・阿島傘・阿島の大藤・安養寺・明神社と歴史的価値の高い伝統・建造物がある。
- ・平安時代から伝承されている阿島祭りを伝える「くらま祭り囃子」は北地区のシンボルでもある。
- ・椋鳩十の生誕の集落であり、墓地・生家跡地、椋文学のふれ愛散策路がある。
- ・北鳴会・北友会・二十日会・北育遊会と団体活動も盛んである。

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①後継者が無く、高齢者世帯、独居老人の増加、隣組戸数が減少している	<ul style="list-style-type: none"> ・組合内の人達でお互いに声掛け運動をする ・一人暮らし、高齢者世帯等弱者の支援活動
②地区内の道路が狭い	<ul style="list-style-type: none"> ・建設委員会で道路・井水の改良工事を提案する
③空き家と荒廃地の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・組合の中の空き家の確認をし、情報の共有をする
④地区自治会の運営を行う人材のなり手がいない	<ul style="list-style-type: none"> ・役員を選出方法の見直しと、運営の効率化を推進する ・隣組の再編によりバランスのとれた自治会活動 ・地区活動の必要性を組合未加入者に説明をして加入を促す

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・道路環境整備をする（道作り、道路、井水改修工事箇所の吸い上げ） ・地域の美化運動の強化（雑草の駆除、犬の糞の処理） ・将来を見据えた地区内組織のあり方の検討 ・防災一災害クロスロードを参考に避難方法を検討する
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・地区への事業、イベント等に積極的に参加する ・隣組の助け合いを大事にして、自治会等の事業に参加する ・災害時の避難開始について、避難経路、避難場所などについて話し合っておく
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯を増やすため、及びリニアによる住宅移転者のため、住宅地や公園の整備を行う ・企業の誘致によりUターン、Iターンを促進する ・地域の特産品創出により地元就労を促進する ・リニアが見える丘公園を作る（JR、県にも要望）とともに、北霊園も含め整備を行う

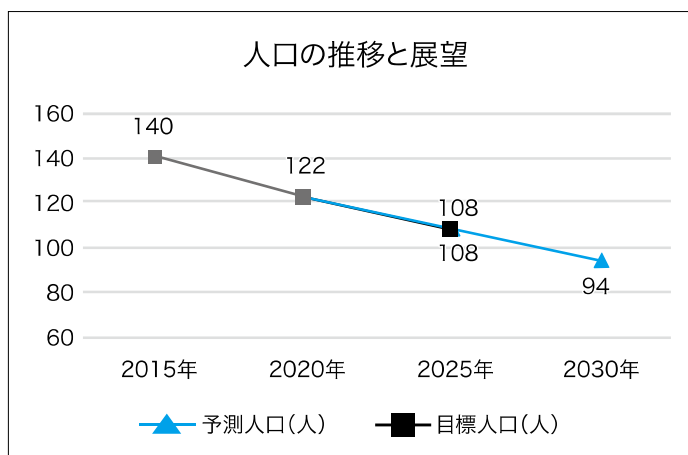
1-2. 寺の前 地区

(1) 地区の将来像

下段への若者定住住宅の誘致による活性化
とともに、城原の土地利用を促進します
(ロケーション環境の良さに伴う活性化による人的交流)

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	140人
2020年 (令和2年6月1日)	122人
2025年(予測人口) (令和7年)	108人
2025年(目標人口) (令和7年)	108人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・ 下段への若者定住住宅建設。(5棟)
- ・ リニアの見える唯一の地区としての里作り。(クラインガルデン+市民農園を念頭)
- ・ 雇用を生み出す。(宿泊施設・食事施設・娯楽施設)

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・ 暖かく、住みやすい。
- ・ 台風時、風の被害が少ない。
- ・ 1級農振地。(水・土がよい、米が美味しい)
- ・ 眺望がよい。
- ・ 星空がきれい。
- ・ 地区の里山。
- ・ 伝統の継承。(お囃子保存会)

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①城原水田耕作が困難 (高齢化、水路、取り入れ口、水不足)	<ul style="list-style-type: none"> ・水の確保 (ため池等) ・水田以外の土地利用
②若者定住住宅等誘致にともない、 集落センター (避難所) の移設	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して生活できるように、災害時に安全な避難所施設を確保
③高齢化、人口減	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅誘致 ・道路等の環境整備

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・若者定住住宅の誘致 ・空き家有効利用 ・ボランティア活動
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・シングル率の解消 ・農地の流動化に協力
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・集落センター (避難所) の移設 ・城原水田地区の活性化 ・情報の発信と将来を見据えた分析 ・リニア開通に向けて城原地区有効利用

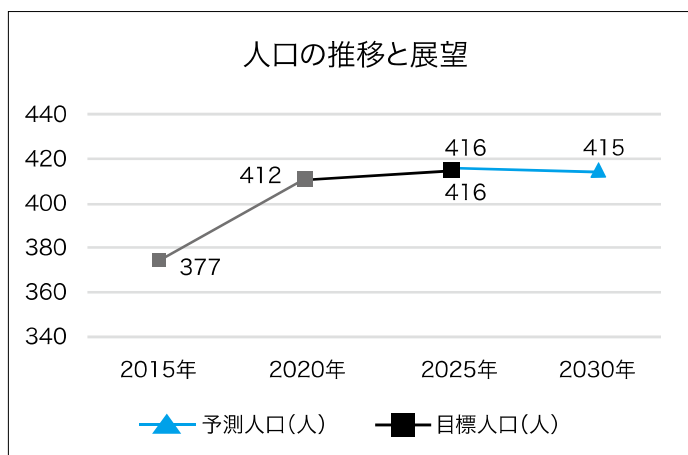
1-3. 帰牛原 地区

(1) 地区の将来像

自然環境に恵まれた台地を活かし、
子供から老人まで元気で暮らせる帰牛原
「すきな帰牛原を すてきな帰牛原に」

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	377人
2020年 (令和2年6月1日)	412人
2025年(予測人口) (令和7年)	416人
2025年(目標人口) (令和7年)	416人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・ Uターン、Iターンの推進。(郷土への愛着、空き家対策)
- ・ 生活環境の整った地区づくりの推進。(地区の特性を活かす。地区への愛着心の醸成)
- ・ 地区のPRの検討。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・ 帰牛原段丘(標高490～520m)
- ・ 自然環境・景観が良好
- ・ 優良農地(維持・保全)
- ・ 帰牛原用水(維持・管理)
- ・ 教育施設(小・中学校、総合グラウンド等)
- ・ 伝統文化(継承:お祭り、球技大会、運動会等)
- ・ 人間性が高い(優しい、協調性、律儀、良き慣習)

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①郷土愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・ U ターン意識の醸成 ・ 伝統文化の継承（歴史、お祭り、名所等） ・ 阿島区等の行事に積極参加
②住民一人ひとりの顔が見え、助け合える耕地を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会・公民館活動への積極的参加 ・ 挨拶、声掛けの励行 ・ 帰牛原情報誌の発行（素敵な帰牛原）
③生活環境の整った耕地を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境整備作業の充実、積極的参加 ・ 農地、井水の維持管理（多目的交付金の活用） ・ 建設要望等の的確な管理・処理 ・ 水天宮の整備（参道の整備） ・ 集会所の整備（設備の充実、増設）
④防災対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主防災組織の効果的な活動 ・ 防災・危機管理意識の高揚 ・ 危険地の確認、認識の共有を図る ・ 飲料水になる水源の確保・維持 ・ 避難困難者等の把握と援助体制
⑤高齢者、弱者（年少者、障がい者）への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者・単独世帯の把握、声掛け ・ 高齢者の公民館行事等への参加（交流） ・ 教育フォーラムの充実（自治会の積極的参加）

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建設要望箇所を含む環境整備を積極的に実施 ・ 農地・井水の維持管理に多目的交付金の効果的活用 ・ 自主防災組織を中心として積極的な防災対策の実施 ・ 教育フォーラム等の充実（伝統行事等の継承、郷土史の語り） ・ 水天宮の整備（参道等の整備） ・ 集会所の整備（設備の充実、増設） ・ 高齢者と集う会合の実施
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村、区、自治会、公民館等の行事に積極的参加 ・ 挨拶、声掛けの積極的実施 ・ 農地、井水の維持管理に所有者・耕作者として積極的に協力
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の整備（道路の拡幅工事等、交通安全対策） ・ 井水（河川）の確保（リニアトンネル工事流水） ・ 宅地の造成（15軒程度） ・ 空き家の把握と有効活用

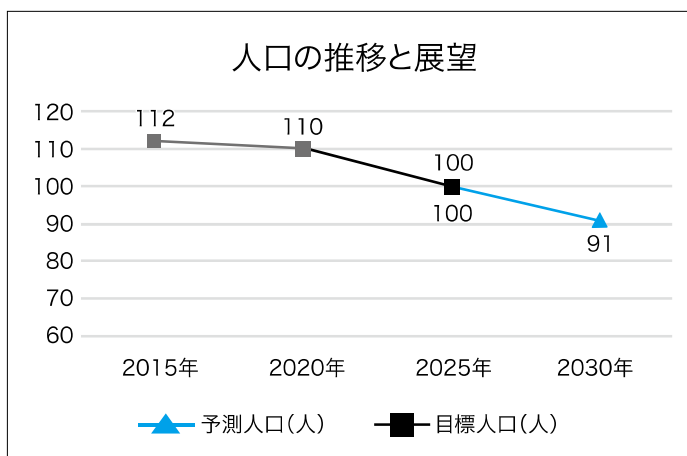
1-4. 郭 地区

(1) 地区の将来像

互いの立場を尊重し明るく豊かな住みよい地域

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	112人
2020年 (令和2年6月1日)	110人
2025年(予測人口) (令和7年)	100人
2025年(目標人口) (令和7年)	100人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・ 地域をあげて子育て支援への協力。
- ・ 若者への結婚後も居住してもらう働きかけ。
- ・ 移住希望の人にある程度の期間（数週間～数か月）実際に住んでもらう試み。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・ 知久氏の城下町として栄えた地で、旧史跡がある
- ・ 特養、保育園、茶室、公民館を有している、阿島区の中心地
- ・ 村の下段地域に位置するが、村の中でも高齢化率が高く、一人暮らし高齢者が多い
- ・ 伝統文化を遵守する雰囲気があり、阿島区のほぼ中央に位置し生活環境に恵まれている
- ・ 空き家を活用している
- ・ 医療機関への近さ

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①高齢化率が高く一人暮らしの方が多い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敬老会、ごしょぐるまの会実施 ・ 一人暮らしの買い物支援
②自治会、公民館活動の担い手不足と高齢化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業の縮小、簡略化
③生活道路が狭い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭いなりの安全は確保されている
④人口減少	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家の有効利用 ・ Uターンの促進
⑤地区の特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住みよい環境条件をアピール

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亡くなる方を減らす長寿への取組み ・ 住民の健康 ・ 交通安全対策
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 転出者を減らす ・ 結婚をしてもらい住んでもらう ・ 住所を残しての転出
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 転入者を増やす ・ 入居可能な空き家の把握 ・ Uターン可能者を把握し推進

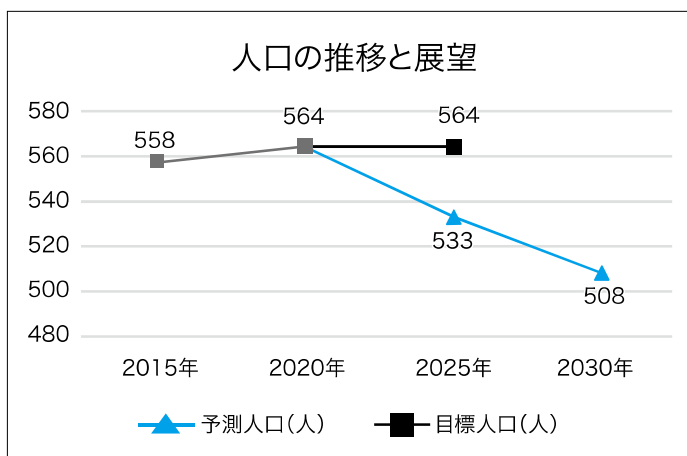
1-5. 町 地区

(1) 地区の将来像

子供から高齢者まで安心安全で親しみ易く楽しい地域づくり

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	558人
2020年 (令和2年6月1日)	564人
2025年(予測人口) (令和7年)	533人
2025年(目標人口) (令和7年)	564人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・二世代、三世代目が町に残るように呼びかける。
- ・周辺地域から住みたくなるような魅力ある町づくり。
- ・コミュニティ広場の充実。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・阿島傘の会、祭保存会
- ・洩静寺
- ・医療機関、駐在所、コンビニ、金融機関、商店に近いなどインフラの充実
- ・平地が多く気候が安定（晴天が多い）し生活し易い反面、急傾斜地や加々須川があり、危険箇所等を抱えている
- ・高齢層と若年層が地域で分かれている
- ・飯田市に近い

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①自治会活動組織の再編（役員のなりて不足）、高齢化が進む中、組織の見直し	・自治会へ加入しない住民の気持ちも尊重しつつ、自治会、隣組の組織役割を見直し、役員の負担軽減となり手対策を検討する
②避難台帳、要介護者名簿の個人情報情報の管理作成	・年齢、家族構成、健否などはデリケートな個人情報のため、目隠しシールで封入して役場防災部門に提出するなど、協力してもらいやすい仕組みづくりを、検討したい

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動組織の再編 ・将来の問題点を明確にした上で、地域住民の話し合いの場を設け、現状抱えている問題を全員に自分のこととして認識してもらう
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の受診 ・Uターンをできるだけ促進 ・家事、介護、育児については家族で協力体制を図る
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・生活道路の拡幅 ・買い物弱者（一人暮らし高齢者）に対する交通システムの構築 ・村の特色である首都圏、中京圏までの通勤時間と住みよい環境条件をアピールする ・村職員に地域の実情について理解を深めてもらい、行政に反映する取組を図る

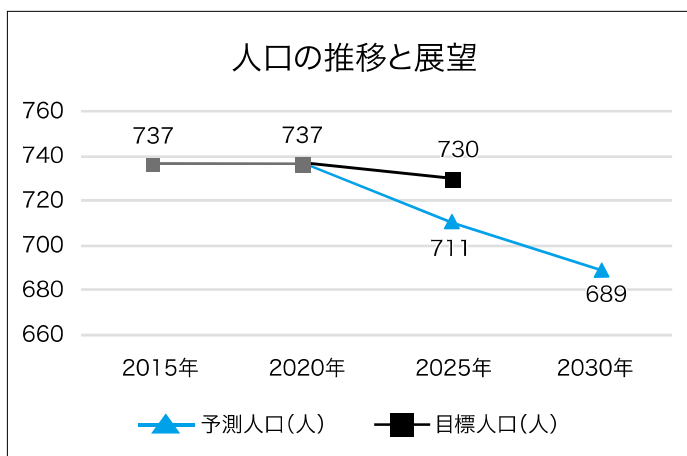
1-6. 南 地区

(1) 地区の将来像

調和の取れた開発により、活気ある地域づくりを目指します

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	737人
2020年 (令和2年6月1日)	737人
2025年(予測人口) (令和7年)	711人
2025年(目標人口) (令和7年)	730人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・ 地区出身者に働きかけ2年で3世帯のUターン者の確保を図る。
- ・ 転入者へのサポート及び協力をする。
- ・ 転入希望者への宅地・空き家の情報収集をし、村を通じて伝える。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・ 小さな拠点の整備が進み、また公共交通の中心でもあり、喬木村の中心的な位置づけである
- ・ リニア新幹線長野駅から近く、阿島橋を渡れば真っ先にこの南地区が有り、喬木村の玄関口である
- ・ 平坦な土地も多く、水田や野菜畑などが有り、農業も盛んで、いちご狩りができる農家もある
- ・ 竜東一貫道・県道が通り、また阿島橋を渡れば飯田市となり交通の便が良い
- ・ 近くには椋鳩十記念図書館と中央社会体育館が有る

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①現状のまま推移すると南地区人口が45年後には約6割の416人となり10人中4人が高齢者という人口構成となる	<ul style="list-style-type: none"> ・他地区からの転入者に対して、相談等の協力をする ・高齢者用の集合住宅の計画があれば、協力していく
②高齢で1人世帯の増加により自治会・隣組・公民館などの活動に支障を来すことが予想される	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会は年番とは切り離し、別組織にしていく ・自治会・年番・公民館の役割・活動内容の見直しをする ・自治会費・区費等の集金方法の一元化を検討する
③後継者不在により空き家や遊休農地の増加が予想される	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家等の確認等情報収集を行い、村を通じて発信する
④狭い道路が多いため緊急車両が入れない道路もある	<ul style="list-style-type: none"> ・医院・病院等の誘致等への協力をする ・地区内の開発に関して、自治会の意向が反映されるよう働きかける

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・地区の伝統文化の継承を進める活動に協力する ・自治会組織の見直しを検討する ・地区内の危険個所の把握と、防災マップの作成をする ・地域内の環境整備を企画し住みやすい地域づくりを実践する ・地域内での見守りを実践することで、お年寄りから子どもまで安心して住みやすい地域づくりを進める ・小さな拠点を活かした地域づくりに協力する ・地区内道路網の見直しと検討
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内行事、公民館活動へ積極的に参加する ・安全で住みやすい地域づくりに協力する（空き家情報等の提供） ・ボランティア活動に積極的に参加する
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・リニアのガイドウェイストックヤード建設による雇用の増加、経済の活性化、道路拡張に協力する ・転入者の増加を図るための補助制度について、村と一緒に検討する

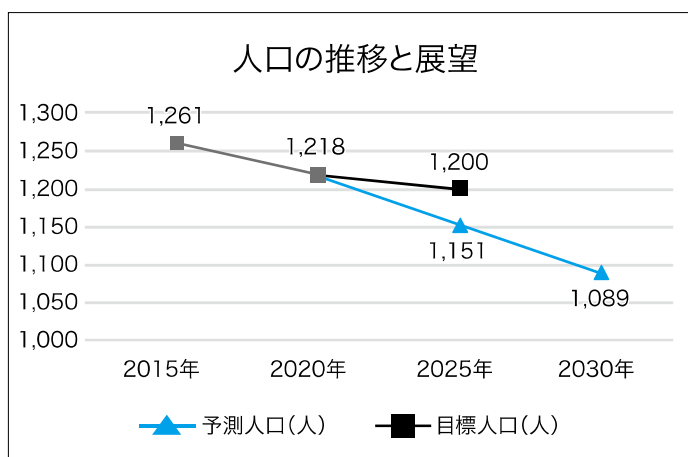
2 小川 区

(1) 小川区の将来像

心が通う安心・安全な地域づくり

(2) 小川区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	1,261人
2020年 (令和2年6月1日)	1,218人
2025年(予測人口) (令和7年)	1,151人
2025年(目標人口) (令和7年)	1,200人



■目標人口達成のための主な取組み

- ・ Uターン、Iターンの促進。
- ・ 住みよい環境づくり。
- ・ 空き家の有効活用。

(3) 小川区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・ 村の中心であり役場、社協、アスポ、福祉センター等の公共施設や商業施設等がある生活に便利な地域
- ・ 3社（韓国社、諸原社、机山社）2寺（真浄寺、医泉寺）を中心とした歴史・伝統・文化
- ・ 道路、水路、農地等が整備され、水稻、果樹栽培を中心とした農業が盛んである
- ・ 保育園、小・中学校に近く、住宅やアパートの入居者などが増えつつある
- ・ お祭り、花づくり、環境整備等地域として住民のまとまりがある

(4) 小川区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①高齢化と独居世帯の増加、人口の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・声掛けと見守り、安否確認 ・Uターン、Iターンの促進 ・住宅地の確保造成と情報の発信 ・住みよい環境づくり
②増加する空き家、廃屋の管理と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の有効活用
③区、並びに自治会の役員に女性の登用がない	<ul style="list-style-type: none"> ・組織のあり方、組織の見直し
④小川渡橋の建て替え	<ul style="list-style-type: none"> ・村を通じ県への要請
⑤消防団員の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・確保のための一層の勧誘活動

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

小川区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動に理解を得るための情報発信 ・村民の交流や活性化の向上に向けた場づくり ・環境美化への取組
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶のできる地域や人間関係づくり ・村や地域の活動に積極的に参加したいと思える意識づくり
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・定住人口を増やすため住宅団地の造成

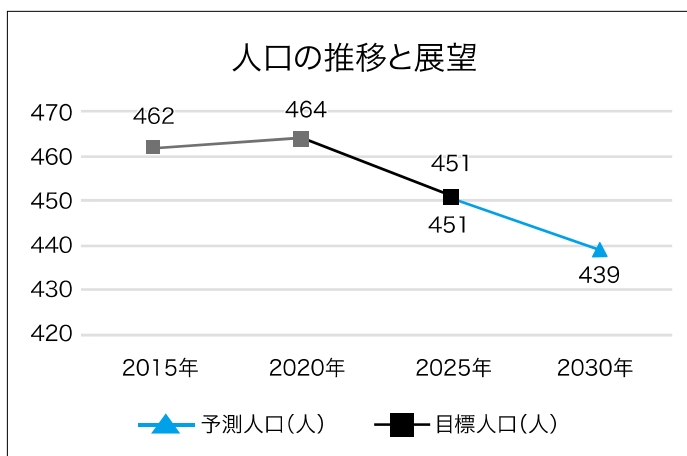
2-1. 馬場 地区

(1) 地区の将来像

協働・元気・思いやりの里 馬場平

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	462人
2020年 (令和2年6月1日)	464人
2025年(予測人口) (令和7年)	451人
2025年(目標人口) (令和7年)	451人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・リニアの開通以降、小さな拠点づくりや堰下地区の土地開発の推進。
- ・無理して人口を増やすのではなく、安心して住める生活環境の維持に配慮しながら、人口の維持・増加を図る。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・役場や社協、アスポ等の公共施設や商業施設があり生活に便利な地域である
- ・椋図書館や児童クラブ、芝グラウンドなど子どもを取り巻く環境にも恵まれている
- ・新しい住宅やアパート入居者が増えている
- ・堰下地区を中心に、リニア開通に向けた開発の影響を受ける地区である
- ・県道沿いの商店街などを中心に高齢化が進み、空き家も増えている
- ・豊かな里山一段丘面の里山とそこから見える景観
- ・高寿会：花壇整備や育成会の指導など、お年寄りの智慧や経験を発揮できる場所
- ・馬場平マレットゴルフクラブ：高齢者の健康や人間関係作りの場所
- ・馬場平育成会：子どもたちがさまざまな体験をし、地域の方とふれあえる場所

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①増加する空き家の管理と活用	・ 村と協議して検討
②三遠南信自動車道からのアクセス道路や橋の改修	・ 村と県に要望
③高齢化率は加々須に次いで高くなっており、災害時等の対応が必要	・ お年寄りが活動できる場や、お年寄りが集まりやすい場所の確保（マレットゴルフ、ミニデイなどへの参加呼びかけ）

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	・ 村民の交流や活性化に向けた場の設定（スポーツ大会、敬老会など） ・ 一人暮らしの家庭の見守り、高齢者家庭の災害時の対応
個人や家庭で取り組む	・ 挨拶のできる環境づくり ・ 地域の活動に積極的に参加するような意識の向上
村と協働で取り組む	・ 道路、河川の管理・補修・改修

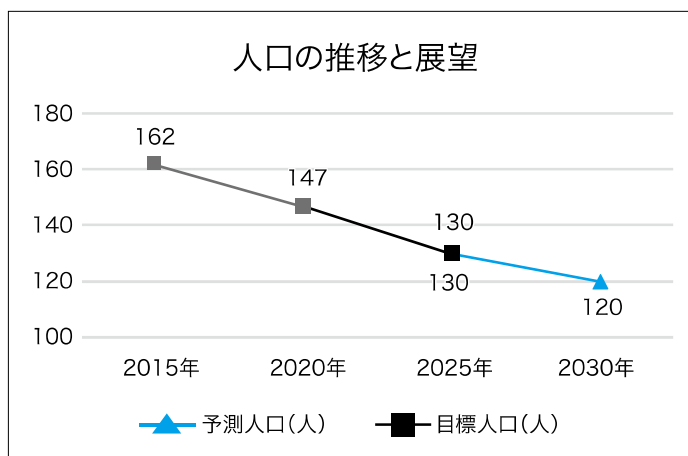
2-2. 両平 地区

(1) 地区の将来像

「地域を良くしていきたい」
それには「自分たちの手で地域づくりを進めよう」

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	162人
2020年 (令和2年6月1日)	147人
2025年(予測人口) (令和7年)	130人
2025年(目標人口) (令和7年)	130人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・ Uターン、Iターン者のための住宅地の確保。
- ・ 空き家の有効活用。(情報の発信と共有化)
- ・ 住み良い環境づくり。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・ 自然豊かなホテル飛び交う小川川
- ・ 水田、果樹、いちご栽培を中心とした農業地域
- ・ 韓郷社は600年の歴史がある神社(550年前足利時代に再建されたとされている。春や秋には祭りが行われる)。春は獅子舞も披露され、宵祭りでは珍しい白色の獅子舞がある。
- ・ 村の中心地に近く、交通の便がよく生活に必要な施設等にもアクセスがよい
- ・ 保育園、小・中学校に近く、住宅が増えつつある。

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①人口減少による組合の再編	・ 現在 6 戸～ 9 戸で組合が編成されているので問題ないが、再編となると昔からの習慣があり、非常に難しい。
②公民館活動等への参加者の減少	・ 人口減少により参加者は少なくなっているが、人口増加をしていかないと解決は困難である。
③高齢化と独居世帯の増加が進んでいる	・ 独居老人宅には、声掛け運動を行い現在も地区全体で様子を見ている。
④リニア、三遠南信道工事に伴う交通量の増加	・ 県道の交通量が増加することを考え、安協役員に会合の時、交通事故防止を周知させている。なお、危険個所の解消や安全対策を県や村へ働きかけていく。

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小川川の有効活用（河川敷の公園化） ・ 遊休地を活用し、安心安全な子どもの遊び場作り ・ 農振地除外を含め、住宅地の確保
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所の声掛けと見守り・安否確認 ・ 挨拶の励行
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農振地除外を含め、住宅地の確保の検討 ・ 住宅地の計画に基づき県道への水道管の埋設及び歩道の設置

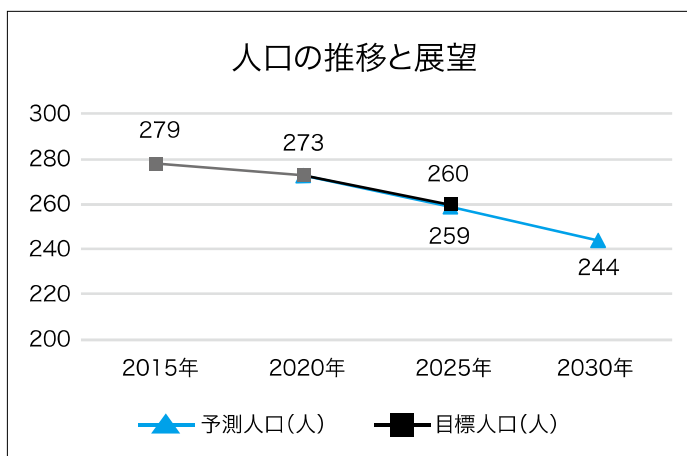
2-3. 田上川 地区

(1) 地区の将来像

人と人のつながりで活気ある地域づくり

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	279人
2020年 (令和2年6月1日)	273人
2025年(予測人口) (令和7年)	259人
2025年(目標人口) (令和7年)	260人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・ 地区内農用地の宅地等転用も含め、住みやすい居住環境づくりの住民合意を図る。
- ・ 地区出身者に地区の情報を定期的に発信し、出身地区への関心を高めてもらい、帰郷のきっかけづくりとする。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・ 温暖な気候、雪が少ない
- ・ 交通の便が良く、生活に必要な施設、拠点に5分以内でアクセスできる
- ・ お祭りや、フラワーロード作業等を通じて、地区としての住民のまとまりがある
- ・ 生活弱者に対する自然な見守りなど近隣に関心がある
- ・ 水利、道路状況が良く農業関係の条件が良い
- ・ 自主的に設立された農業支援組織が農地維持活動を行い、遊休地もまだ少ない
- ・ 歴史ある文化財（医泉寺）がある
- ・ 小川川を含め自然環境に恵まれ、希少な昆虫類も生息している

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①高齢者世帯、独居世帯の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から近隣者から声掛けする ・緊急通報サービスの利用を勧める ・緊急時の近親者の連絡先を把握しておく
②常会・組合の再編成と自治会等の役員養成	<ul style="list-style-type: none"> ・3年以内で新しい組合のあり方について合意形成を行う ・地区内の次世代で世帯を分離した世帯に自治会活動に参加を促す
③防災対策 Ⅰ．小川川 Ⅱ．急傾斜地 Ⅲ．消防団員確保	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの損傷箇所の早期修復と危険箇所監視員の体制を維持する ・日常から自治会役員、団員が対象者に声掛け
④県道、広域農道の交通安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・広域農道小川橋交差点付近の車両減速対策と歩道設置 ・上平→交差点付近の視界確保 ・県道路上駐車については、交差点付近の駐車は行わない
⑤消防センター保守管理	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁塗装、南側ガラス・外壁の改修 ・室外換気対策

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館分館行事も含め、祭典等の地区行事に参加を促す ・次世代の住民に対する行事参加を、同世代から呼びかける ・防災や防犯対策について、情報発信を行う（田上川ふるさと通信）
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者まで地区行事に積極的に参加し、交流を図る ・地区の実情をよく知る
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・小川川堤防、土砂崩落、流出危険箇所の点検と補強改修 ・消防センター避難所としての換気対策と建物の安全確保

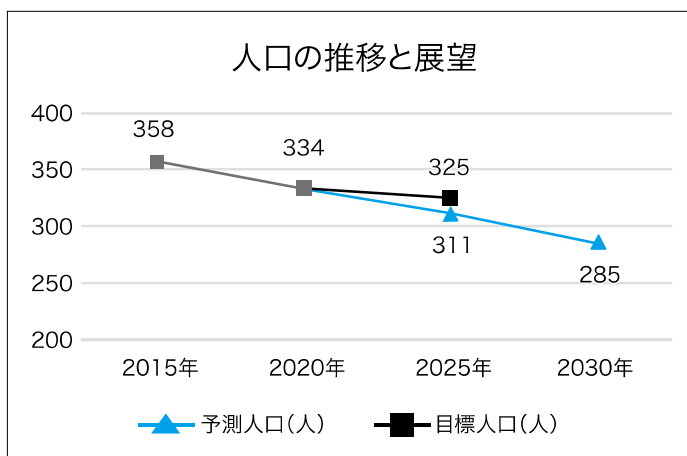
2-4. 上平 地区

(1) 地区の将来像

みんなで協力して「持続可能な住みよい上平」を創る

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	358人
2020年 (令和2年6月1日)	334人
2025年(予測人口) (令和7年)	311人
2025年(目標人口) (令和7年)	325人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・Uターン、Iターンの促進。
- ・宅地造成と分譲、空き家の有効利用。
- ・住みよい環境づくり。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・星空と桜がきれいな「諸原公園」
- ・先人の汗の結晶「上平井水」
- ・上平の統合の象徴「諸原神社」
- ・「書道教室」など現代の寺子屋「真浄寺」

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①土砂災害に強い地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・道路近くの雑木（竹）伐採 ・井水、側溝の維持管理 ・里山整備の推進
②高齢化による農地の荒廃	<ul style="list-style-type: none"> ・荒廃地を増加させないため、農業員会との連携 ・活性化クラブの強化（もろはらの会）
③高齢化と独居家庭の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・隣人・地区住民による声掛け、見守り、安否確認 ・地区巡回バスの利用
④人口の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・村との連携により、宅地造成分譲（企業）を進める
⑤防災、避難場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・集落センター上、工事終了後、避難場所指定の予定

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭り等、地区イベントの継承推進 ・公共施設の清掃、維持管理 ・村政懇談会への積極的参加
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・地区行事、公民館活動への参加 ・ゴミ分別の徹底
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安心な通学路にするため防犯灯の設置 ・鞍馬線の除雪

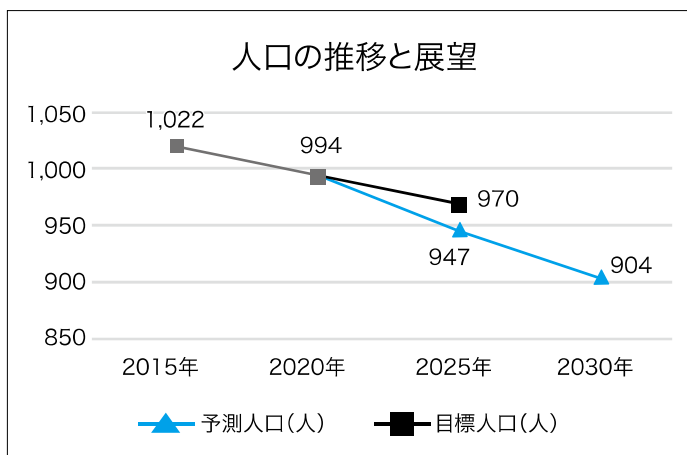
3 伊久間 区

(1) 地区の将来像

自然環境が豊かで、安心安全に暮らせる「和」の里 伊久間

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	1,022人
2020年 (令和2年6月1日)	994人
2025年(予測人口) (令和7年)	947人
2025年(目標人口) (令和7年)	970人



■目標人口達成のための主な取組み

- ・住宅団地の造成。(村と協働の取組)
- ・空き家の活用。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・天竜川に近く、居住地が平坦で雪が少ない
- ・埋蔵文化財がある
- ・飯田市に隣接し、生活環境が良い
- ・果樹、野菜栽培が盛んである
- ・りんごオーナー園、いちご狩りやラベンダー園、ポピー、菊等特産物を生かした観光がある
- ・伊久間原からの景観がすばらしい
- ・美しい河岸段丘
- ・遊休農地を利用した活性化グループが活発な活動をしている

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①人口減少・空き家対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家を借家として貸す、売却する ・ 区内の空き家情報を村内、村外へ発信し入居を勧誘する ・ 空き家利用を考えて安く移住できる方法を考えること ・ 村営住宅を改築、新築して入居者を増やす ・ 土地を宅地に変換し住宅や工場を誘致する。荒廃した農地を企業に紹介する ・ 住宅地を造成する ・ 住宅地、工業団地の誘致と周辺の整備
②土砂、水害に対する対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土砂崩落に対する土木工事、水害時の避難先確保 ・ 避難施設の充実。地区内排水設備の設置 ・ 土砂災害防止構造物設置 ・ 土木改修工事 ・ 一貫水路掃き出し口の樋門に常設の大型排水ポンプの設置 ・ 伊久間原水除け堤防の早期改修工事 ・ 境え沢の整備 ・ 小川渡橋の早期架け替え ・ ライフラインの整備
③村の施設が何もない 加工センターが浸水区域 公民館が老朽化して耐震構造になっていない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災センター、コミュニティ会館、公民館、休憩所、IOT・ZEH・ICT 指導教室、健康・介護指導等を兼ねた総合センターの建設 ・ 災害時の避難場所が安定した場所がないため、早急に建設
④農業後継者不足により荒廃した農地が目立つ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業法人への委託 ・ 農地の集約化 ・ 農地の住宅団地、工場団地への転換 ・ 観光農園に転換する
⑤高齢者の数が多くなり、組合活動、組合脱退者が多くなった組合の活動、役が出来ない 独居高齢者、高齢者世帯が増えている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組合活動の見直し ・ 組合に頼らない役員、係の選出方法を早急に考える時期に来ている ・ 組合ごとや近くの人の見回り、声掛け等をする ・ 区内を4ブロック分けて対応する（自治会組織にして全戸加入）
⑥生活用品、食料品を買える店舗がない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一貫道路の東側へコンビニなどの店舗を誘致する ・ 移動販売スパーの誘致
⑦交通安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一貫道路に横断歩道の設置 ・ 弁天橋の朝の渋滞緩和 ・ ドライバーの交通ルールのマナーのレベルアップを図る

⑧山の手入れが出来ない	<ul style="list-style-type: none"> ・里山整備（県道から気楽に入る事ができる手頃な里山）と山の散策道（ツリークライミング） ・里山整備事業による区内本格的活動 ・県、村等の補助を得て専門業者に依頼する
⑨子育て、保育、教育	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の拠点づくり、子ども食堂の充実 ・わの里公園の整備、通学道路の整備

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・防災コミュニティ総合センターの建設 ・区組織の見直し、組合名称の変更、区会選挙の改正（選挙区の変更） ・里山整備事業の推進
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時いざという時の避難場所（知人、親戚の確保と依頼） ・災害時の安否確認と避難活動の準備 ・地区、近所の草取り、美化活動 ・区の行事の積極的参加
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・村の施設として防災コミュニティ総合センターの建設 ・住宅団地の造成（移住者の誘致）、工場団地の造成（企業の誘致） ・災害復旧、災害対策、ライフラインの見直しと充実 ・村道の改修工事

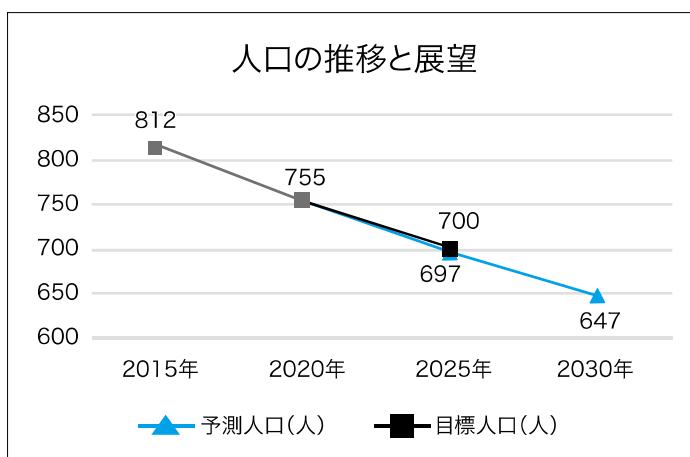
4 富田 区

(1) 地区の将来像

「長い歴史と伝統文化を生かし、新たな交流に賑わう里」

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	812人
2020年 (令和2年6月1日)	755人
2025年(予測人口) (令和7年)	697人
2025年(目標人口) (令和7年)	700人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・ 移住モデルの3種の世帯が毎年1世帯ずつ移住するモデルによる設定。
- ・ 引き続き、区直営による空き家改修、貸付事業を継続する。
- ・ 後継者の区外の流出を抑えるための相談窓口を設置し、各戸の支援を行う。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・ 二本松から城山公園までの富田盆地であり、まとまりのある地形となっている
- ・ 富田区管理山は、秋の味覚「松茸」の産地であり、地域を潤している
- ・ 富田諏訪神社下社の回り舞台、すべて揃った三十三観音など歴史的遺産が残されている
- ・ 飯田市の中心市街地まで10km程度であり、買物や通勤に適した立地となっている
- ・ 構造改善事業により、菅沼、馬草田、五反田、塩田など農地が整備されている
- ・ 地区を一望できる城山公園があり、高齢者クラブの整備により区民の憩いの場となっている
- ・ 事念仏、地区ごとのどんど焼き、諏訪神社春秋祭典など伝統行事が継承されている
- ・ 富田地区に近接して三遠南信自動車道の飯田上久堅・喬木富田インターがある

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①人口の減少	・引き続き空き家活用事業の実施と区を中心とした相談窓口などによる後継者引きとめ
②遊休農地、荒廃地の増加	・農業委員等と連携した担い手の発掘、斡旋による農地の保全を継続する
③茸山の存続	・茸山の知識（場所、樹種、手入れ技術など）を区民に広く周知して、後継者を育成する。
④高齢者の増加、人口により地区行事への住民負担の増加	・地区行事の内容、役員体制の見直し

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・三遠南信自動車道を活用し新たな交流人口増加を目指し、農産直売所（楽珍館など）等、集客資源の活性化を通年進める ・地区行事に参加しやすい環境と、小祭りの見直しにより負担軽減を図る
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・後継者が転出しないように家族で地域に興味を持てる機会作りと、意識付けを行う ・転出者の帰村できる住の環境づくりを継続する
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・三遠南信道の交流人口増加を視野に、検討委員会を中心に、観光拠点とし城山公園を村と連携し、大規模整備を策定する

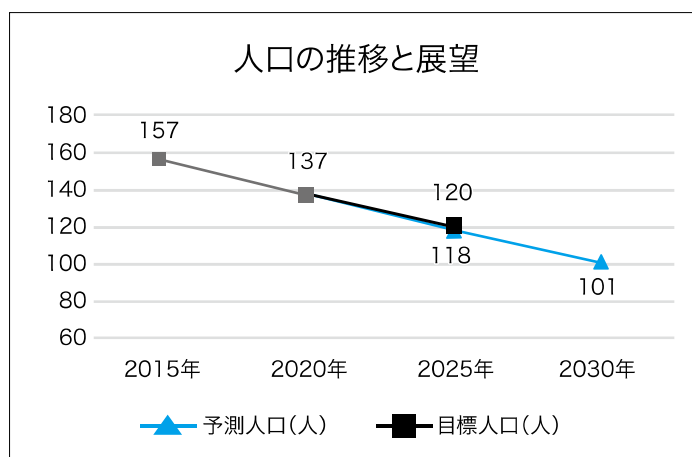
5 大和知 区

(1) 地区の将来像

伊那谷一帯を全貌する景勝と共助の和みの里

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	157人
2020年 (令和2年6月1日)	137人
2025年(予測人口) (令和7年)	118人
2025年(目標人口) (令和7年)	120人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・ 兼業による後継者維持、育成。
- ・ 適齢者の結婚相談。
- ・ 空き家等を活用した住居の確保。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・ 数十年後地区が存続するか不安を抱える中山間地
- ・ 飯田、下伊那地区を展望できる地区
- ・ 九十九公園にササユリ群生地
- ・ 大和社祭典に地区全体で取り組んでいる
- ・ バス利用が可能
- ・ 三遠南信道のICが近い
- ・ 伊那谷と遠山谷を結ぶ幹線道路が通る

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①九十九公園の維持管理	・ 憩いの場でもあり、ササユリもあり区民全員で維持管理。高齢化もあり村営を検討
②遊休農地の解消	・ 増加する一方で見通しが立たない
③村道7号線の管理と希望	・ 沿線の草刈りは毎年実行 ・ 交通量の莫大な増加（三遠南信工事車両） ・ 遠山地区の幹線道路、交通事故心配
④後継者不足	・ 現在137名から10年後100名を切る 世帯数も48戸から30戸を切る ・ 少子高齢化に歯止めはない
⑤黒焼き洞の埋め立て協力	・ 矢筈ダムの堆積土利用

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	・ 村との連携を図る ・ 区、公民館行事の積極的参加
個人や家庭で取り組む	・ 農地等の保全を行う ・ 健康管理、役場保健診断の参加
村と協働で取り組む	・ 里山事業の積極的参加、協力 ・ 地区内道路の整備

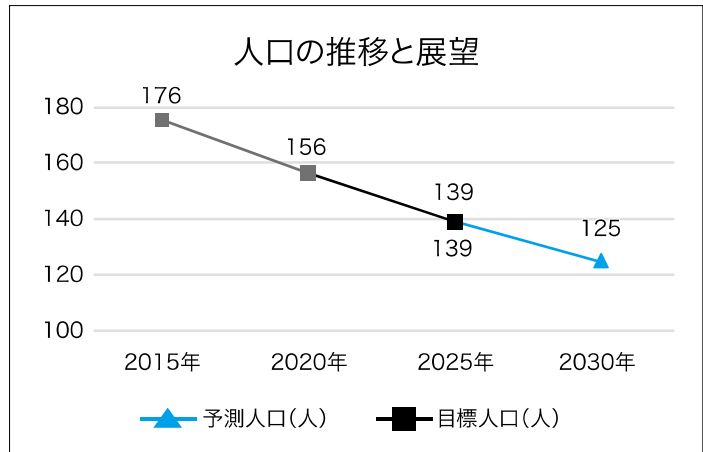
6 氏乗 区

(1) 地区の将来像

「人も自然も元気 ーおいでなんしょ氏乗ー」

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	176人
2020年 (令和2年6月1日)	156人
2025年(予測人口) (令和7年)	139人
2025年(目標人口) (令和7年)	139人



■目標人口達成のための主な取組み

- ・毎年、[4歳児以下を連れた30代前半夫婦1組] + [20代前半夫婦1組] + [60代前半夫婦1組]のUターンを目指す。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・豊かな自然 : 四季を通じた山河の景観、星空、禍誤除の滝、野生のシャクナゲ、九輪草、花桃、松茸・キノコ、分教場の桜、大杉、もみじ
- ・美味しい農産物 : 良い水と温度差がつくる旨い米と野菜
- ・あふれる歴史文化 : 宇治社祭神のウマシマジの命は飯田下伊那に一社だけ
宇治三柱神社(春秋祭典、獅子舞)、氏神様、石仏など
- ・拠点施設 : アグリパーク雨沢とブルーベリー狩り・栗狩り、矢筈ダムとキャンプ場、矢筈公園夏祭り、直売所「田舎道」、クライנגルテン
- ・特産品 : 矢筈コンニャク、栗焼酎
- ・地区の輪 : アダプト・アクションアワーによる協同作業、まとまりがあり声をかけるとすぐ集まる、協力し合う関係がある。(祭りやイベントなど)

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①【自然環境】 ・資源である矢筈ダムが埋まり環境が悪くなっている ・有害鳥獣の被害が多い	・自然環境を活かす ・自然や川遊びの出来る場所の整備
②【産業 雇用面】 ・働く場所がなく現金収入がない ・農業従事者の高齢化、担い手不足により、遊休地の増加や、生産力の低下が見られる	・遊休農地を活かす ・若者が戻れる、移住できる仕事づくり ・自然環境を守り、地区の特性を活かした産業づくり ・直売所、田舎道で農業振興と加工販売及び情報発信の展開
③【生活、安全環境面】 ・若者人口の流失で過疎、高齢化が進行し、空き家が増加している ・災害時は孤立状態になりやすい	・施設、拠点を活かす ・相互扶助のコミュニティづくり
④【交通面】 ・道路への寒気が張り出し、日照不足や冬期の道路積雪、凍結が困る	・安心、安全な地区づくり

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・里山整備事業での整備資材活用による子孫に残す里山作りの推進 ・高齢化が進み休耕田、畑の増加で草刈地が増え協働作業により地域環境を守る ・戸数減少による区内各組織等の内容の見直し
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進む中で家族としての役割 ・区の共同企画には進んで参加をする ・氏乗の良さを子ども達に継承
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・県道上飯田線、氏乗、小川区間の道路改良 ・三遠南信道の利活用 ・村道の拡幅、改良 ・矢筈公園キャンプ場施設の整備 ・クラインガルテンの活用方法

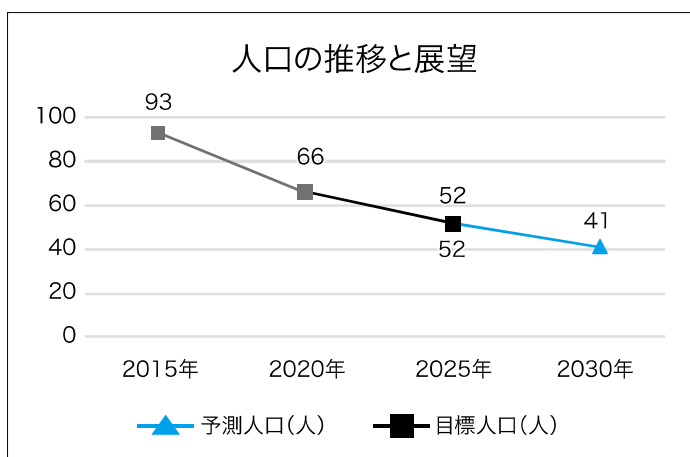
7 大島 区

(1) 地区の将来像

豊かな自然の恵みを生かした、安らぎと癒しの里づくり

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015 年 (平成 27 年 6 月 1 日)	93人
2020 年 (令和 2 年 6 月 1 日)	66人
2025 年 (予測人口) (令和 7 年)	52人
2025 年 (目標人口) (令和 7 年)	52人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・ 地区出身者に働きかけ U ターン者確保を図る。
- ・ 空き家や遊休農地を利用し、U ターン者を確保する。
- ・ 観光農業やクラインガルテンを通じ大島地区の魅力を伝える。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・ 周囲を山に囲まれ、自然豊かでのどかなところ
- ・ 森林あり、清流あり、四季の変化も多様である
- ・ まつたけ観光、ブルーベリー狩り、こんにゃく、山菜狩り等の固有の資源
- ・ 馬合の桜、能登沢ダム親水公園、菊目石およびクラインガルテン
- ・ 空気がきれいで星空が美しい
- ・ 村内でも典型的な山間集落で、高齢化が著しい
- ・ 山村の原風景を残した景観と集落の共同体を感じる風土

(4) 地区の課題と解決方法

課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①県道清掃・公園整備・河川整備・草刈り作業等、高齢化や人口減少により労働力不足となっている	<ul style="list-style-type: none"> ・タイヤローダー・ブロー等、建設機械を利用して、省力化を図る ・地域外から通ってくる農作業者に協力要請する
②新規就農希望者の農地の貸借が、円滑に借りられない。	<ul style="list-style-type: none"> ・地主との交渉に協力する ・産業振興課・農業委員会等に相談する
③人口減少に伴い、上部団体役員・財産区役員・地区役員選出に苦勞している。	<ul style="list-style-type: none"> ・各団体の役員体制の見直しをする ・地区毎の一律割り当ての可否を検討する
④独居所帯増加による孤独化とコミュニケーション不足	<ul style="list-style-type: none"> ・あさひ会（ミニデイ）の実施継続 ・居酒屋大島の継続と、開催回数の拡大検討
⑤遊休農地の拡大で荒れ地が増大している ・農業離職による遊休農地増加 ・果実類の収穫放置等	<ul style="list-style-type: none"> ・住民を主体とした出荷野菜生産など、協働作業拡大で、農地を有効活用し活性化を図る ・耕作・収穫困難になっているブルーベリー畑等は、地主の了解を得て、NPO や村のホームページ等で募集する
⑥観光事業の後継者の減少で、運営に苦勞している	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の協力者を募集する ・協力隊や地区外への協力者を募集する ・運営方法を検討する
⑦防災対策の充実が必要である	<ul style="list-style-type: none"> ・第一公民館等へ移動手段の確保 ・第一避難所を地区内に4カ所設ける ・4カ所の避難所へ発電機の設置検討

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・遊休農地の環境管理のために、草刈りや耕運などを行う応援隊等の立ち上げ検討 ・公園・クラインガルテンの草刈り作業等は住民参加を検討する ・春季・秋期祭典時の投げ餅の分配方法の検討をする ・大島出身の近隣市町村在住者と、今後の大島についての意見交換をする
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や家庭環境の問題等、区・行政等に相談出来る雰囲気づくりをする ・地域行事に積極的な参加と、親戚知人に参加の呼び掛けをする
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・県道・村道の改良促進活動の継続 ・発電機増設について、補助事業を相談し購入の検討 ・三遠南信道・リニア新幹線の開通を見据えた交流・定住人口の拡大活動

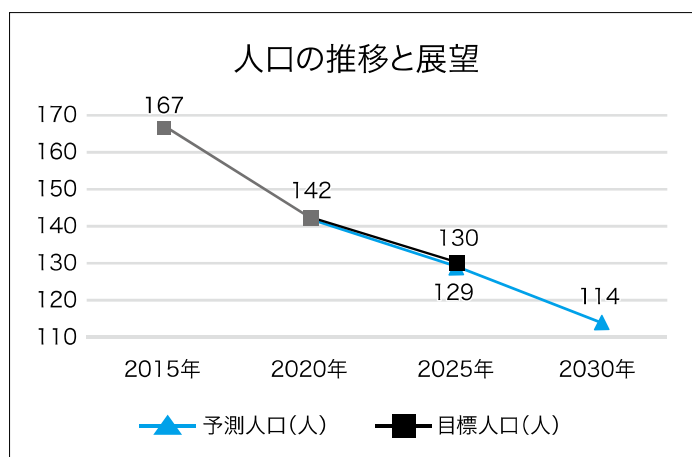
8 加々須 区

(1) 地区の将来像

住む人の顔が見える地域づくり

(2) 地区の人口動態と目標人口

人 口	
2015年 (平成27年6月1日)	167人
2020年 (令和2年6月1日)	142人
2025年(予測人口) (令和7年)	129人
2025年(目標人口) (令和7年)	130人



■ 目標人口達成のための主な取組み

- ・空き家対策で行政の応援を頼む。
- ・若い人に帰ってきてもらう。
- ・道路を良くし、住みやすい環境をつくる。

(3) 地区の特性と保有する資源

■ 特性と資源

- ・山間地に位置し、生活に不便である
- ・自然環境が豊かである(加々須川、夜景、瀬戸の滝、茶臼山、高関山)
- ・地区全体で取り組んでいる夏祭り
- ・獅子舞が伝承されている
- ・活性化組合でさつま芋をつくっている

(4) 地区の課題と解決方法

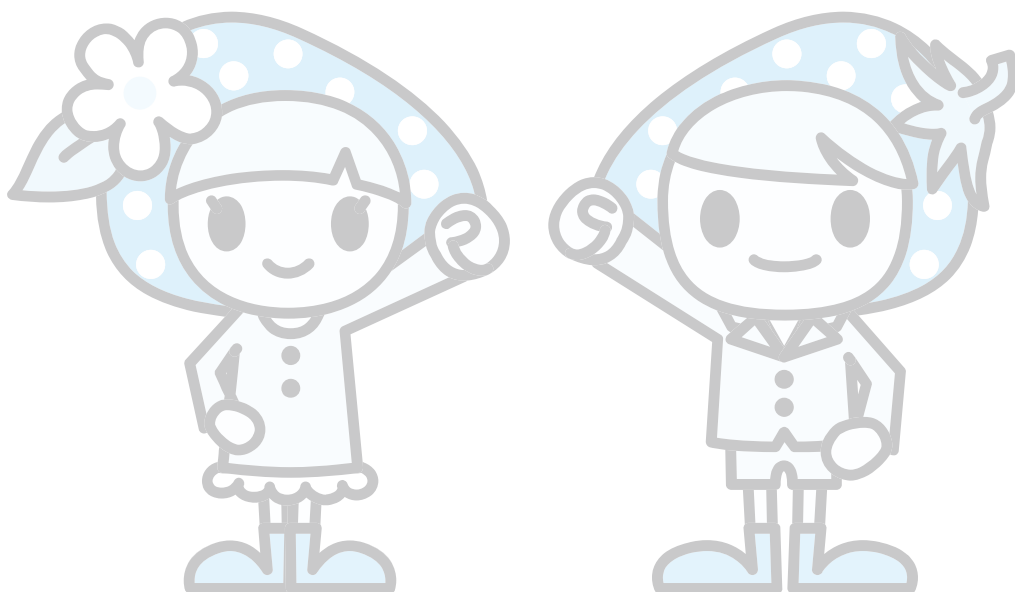
課題と解決方法	
地区の課題	課題解決の方法
①遊休農地、荒廃地の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・活性化事業でさつまいも等を栽培する ・里山整備利用に取り組む
②道路が狭い	<ul style="list-style-type: none"> ・道路を良くし、住みやすい環境づくり
③空き家、廃屋の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者を募り、リフォームに村の補助金を活用する ・空き家対策で行政の応援を頼む ・若い人に帰ってきてもらう
④高齢者の増加、活動できる人の減少、交代する人がいない	<ul style="list-style-type: none"> ・役目を少なくし維持できる体制づくり ・移動支援サービス事業に取り組む
⑤有害鳥獣による農作物の被害	<ul style="list-style-type: none"> ・地区全体で対策に取り組み、情報の共有をする

(5) 将来像を目指すための具体的な取組

地区として取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・常会の維持（統合、集約も検討） ・役員だけではない、活性化組織づくり ・一人暮らしの区民が増加しているため、地区で協力し助け合う ・区民が集える活動づくり
個人や家庭で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・地域事業、行事作業に積極的に参加する ・家族が健康で毎日暮らす ・家の中で会話を多くする
村と協働で取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家、リフォーム補助の引き上げ ・道路改良 ・都会の若い人にネットを利用して声をかける ・人口が減少しても安否確認や交流できる新たな方法



資料編



資料編

●第5次喬木村総合計画 後期基本計画策定経過

日付	経過
令和2年4月	村民意識調査 ・16歳以上の村民800人 回収率47.7%
令和2年6月	地区別計画ヒアリング ・地区計画の内容について地区代表者と意見交換
令和2年10月	各関係団体の意見集約
	第1回喬木村計画審議会 ・前年度の事業評価
令和2年11月	第2回喬木村計画審議会 ・後期基本計画（素案）について分科会審議
令和2年12月	住民公聴会 ・各目標ごとに施策の説明、意見集約
	パブリックコメント実施 (寄せられた意見はありませんでした)
令和3年2月	第3回喬木村計画審議会 ・第5次喬木村総合計画（後期計画）について諮問、審議 ・答申（令和3年3月1日）
令和3年3月	喬木村議会で審議、可決

● 喬木村計画審議会条例

喬木村計画審議会条例

昭和 47 年 3 月 30 日
条例第 5 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の 4 の規定に基づき、喬木村計画審議会の設置及び運営に関する事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 村長の諮問に応じ、村計画に関し必要な調査及び審議を行うため、喬木村計画審議会を置く。

(組織)

第 3 条 審議会は、委員 22 名以内で組織する。

2 委員は、次の各号に掲げるものについて村長が任命する。

- (1) 村議会議員 6 名以内
- (2) 村教育委員会の教育長又は委員 2 名以内
- (3) 村農業委員会の委員 3 名以内
- (4) 村の区域内の公共的団体の役員及び職員 4 名以内
- (5) 学識経験を有する者 7 名以内

(会長)

第 4 条 審議会に会長を置き、委員が互選する。

2 会長は、会務を総理する。

3 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名した委員がその職務を代理する。

(任期)

第 5 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第 6 条 会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 審議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 審議会の議事は出席委員の過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

附則

この条例は、昭和 47 年 4 月 1 日から施行する。

附則（昭和 47 年 11 月 15 日条例第 19 号）

この条例は、公布の日から施行する。

附則（平成 27 年 3 月 23 日条例第 4 号）

(施行期日)

1 この条例は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成 26 年法律第 76 号）附則第 2 条第 1 項の規定により教育長がなお従前の例により在職する場合においては、この条例による改正後の喬木村計画審議会条例第 3 条の規定は適用せず、改正前の喬木村計画審議会条例第 3 条の規定は、なおその効力を有する。

●第5次喬木村総合計画 審議会委員名簿

(敬称略)

役 職	氏 名	備 考
会 長	仲田 和文	区長会長
委 員	下岡 幸文	村議会議長
委 員	木下 温司	村議会副議長
委 員	下平 貢	村議会総務産業建設常任委員長
委 員	中森 高茂	村議会社会文教常任委員長
委 員	井原 由美子	教育委員
委 員	鈴木 敏雄	教育委員
委 員	勝野 明人	農業委員会会長
委 員	城田 位功	農業委員
委 員	松本 誠司	JAみなみ信州喬木支所長
委 員	福山 康雄	商工会長
委 員	池田 英幸	小川耕地財産区議会議長
委 員	原 一夫	NPO法人たかぎ理事長
委 員	藤本 徹之	商工会青年部長
委 員	松澤 俊子	女性団体連絡協議会長
委 員	座光寺 秀元	社会福祉協議会理事
委 員	奥村 茂実	むらづくり未来委員会委員長
委 員	原 邦彦	飯田信用金庫喬木支店長
委 員	河西 真法	三校 PTA連絡協議会 (中学校 PTA会長)

人が輝き 未来につながる ^{うま} 美し郷 喬木

第5次喬木村総合計画

【後期基本計画】

発行：喬木村

〒395-1107 長野県下伊那郡喬木村 6664

TEL：0265-33-2001

FAX：0265-33-3679

E-mail：info@vill.takagi.nagano.jp



村木：イチョウ



村鳥：ウグイス



村花：クリンソウ



イメージキャラクター



ロゴマーク